

＜ もくじ ＞	
1. 巻頭言：『生産年齢人口』という言葉はもう使わないで	1
2. 2025年度定時総会・創立25周年記念大会開催のお知らせ（再掲）	2
3. 研究会からのお知らせ	2
4. 研究会からの概要報告	3
5. 事務局からのお知らせとお願い	6

1. 巻頭言：『生産年齢人口』という言葉はもう使わないで

「生産年齢人口」という言葉を皆さん御存知でしょう。15～64歳人口を指す用語です。皆さんもこの言葉を使って論を展開されたりすることもあるのではないのでしょうか。

その用語の趣旨は生産活動の担い手、経済社会の支え手、ということだと思います。このことは、その「生産年齢人口」の外にいる15歳未満人口と65歳以上人口の合計を、15～64歳人口に支えられている「従属人口」と言っていることから明らかです。

実際この「生産年齢人口」を「従属人口」で割った数値をもって、「何人で何人を支える」といった言い方もよくされます。例えば2024年例えば、その比率は約1.47となり、ほぼ1.5人で1人を支えるということになります。それで大変だなどと大騒ぎにもなったりするわけです。

しかしこれはとてもミスリーディングです。なぜなら支え手は単なる人口ではなく、働く意思を持った人口である「労働力人口」だからです。2024年には65歳以上の労働力人口は946万人で、これは労働力人口全体6957万人の13.6%で、ほぼ7人に1人にのぼります。65歳以上の人たちは、すでに経済社会の支え手として欠かせない役割を果たしています。

人口に占める働く意思を持った人の比率である労働力率で見ても65歳以上で26.1%と4人に1人以上は就労意思を持っています。さらに高齢者の中でも比較的若い65～69歳では54.9%、70～74歳でも35.6%と、それぞれ2人に1人以上、3人に1人以上は就労意思を持っています。

しかもこれから65歳以上の高齢人口は2040年代にかけてまだ当分増加し続け、一方で15～64歳人口はどんどん減っていきます。日本の経済社会はますます65歳以上の高齢労働力に頼らなくてはならなくなることは確実です。そんな時代になってもまだ15～64歳を「生産年齢人口」などと言い続ける人たちは一体何を考えているのでしょうか。

私はこうした問題意識を持って、かつて『生産年齢人口』の誤謬（『週刊社会保障』2017年10月2日号）という拙文も書きました。しかしそれから8年経っても相変わらずメディアや政府資料などでこの言葉は使われ続けています。高齢者に社会の支え手になって欲しいと言っている政府などは、まず率先してこの用語を使うことを止めるべきです。そしてもちろんシニア社会学会会員の皆さまにも、そのことを是非お願いしたいと思っています。



シニア社会学会 副会長
日本赤十字社 社長 清家篤

2. 2025年度定時総会・創立25周年記念大会開催のお知らせ（再掲）

2025年の総会と創立25周年記念大会は、6月7日に市川の千葉商科大学で開催されます。大会シンポジウムのテーマは、「いま、なぜシニアの社会参加なのか」です。シニア社会学会創設の狙いは、シニアが社会のお荷物になることなく、可能な限り社会の支え手として役割を果たすよう、社会に参加し参画することでした。シニアが社会参加することは個人の生きがいや健康維持につながるだけでなく、アクティブシニアが増えることで経済社会や地域を活性化させ、ひいては社会保障への支出を減らすことも可能でしょう。本大会が「シニアの社会参加の意義と意味」を考察する機会となることを願っております。シンポジウムと懇親交流会はどなたでも参加いただけます。

- 1) 開催日時：2025年6月7日（土）
- 2) 時間：総会11:00～12:00 大会13:00～16:40
- 3) 会場：千葉商科大学市川キャンパス7号館702教室（大会はオンライン併用）

《第1部》一般社団法人シニア社会学会総会（会員のみ）

◆2025年定時総会 11:00～12:00

《第2部》一般社団法人シニア社会学会創立25周年記念大会 13:00～16:40

◆大会テーマ「いま、なぜシニアの社会参加なのか」

- ・総合司会：柴本淑子（理事）
- ・大会挨拶：袖井孝子（会長）

◆シンポジウム

- ・基調講演：「シニアが拓く『三方良し』の地域づくり」
講 師：藤原佳典（東京都健康長寿医療センター研究所 副所長）
- ・パネルディスカッション：「いま、なぜシニアの社会参加なのか」
司 会：袖井孝子（シンポジウムの趣旨説明とパネリストの紹介）
- ★ 池口武志「シニアが働き続けることの個人的社会的効果」
（当会理事、一般社団法人定年後研究所所長）
- ★ 野中孝泰「シニアにとっての社会参加の可能性と意義」
（当会副会長、特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ会長）
- ★ 清水肇子「シニアの社会参加が地域社会にもたらすもの」
（公益財団法人さわやか福祉財団理事長）

コメンテーター：藤原佳典

- ・大会閉会挨拶：濱口晴彦（副会長）
- ・懇親交流会：17:00～18:30 千葉商科大学市川キャンパス The University DINING

◆大会参加費：1,000円（申込は6月4日まで 支払いはPeatix、振込、当日会場）学生無料

◆懇親交流会：4,000円（申込は5月24日まで、支払いは当日会場で）

※ 総会・大会会場は、市川駅から徒歩20分またはバス。京成本線国府台駅から徒歩10分

※ 詳細はすでにメールや郵送でお知らせしていますが、ホームページでご確認ください。

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第75回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 開催日時：2025年5月21日（水） 18:00～20:00
- 2) 開催場所：早稲田大学26号館1101会議室（対面とZoomのハイフレックス開催）
- 3) 開催主体：早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」、当学会「災害と地域社会」研究会共催
- 4) 報告者：松村治（地域社会と危機管理研究所 招聘研究員）

5) テーマ:「地方都市の未来を決めるもの ―鶴岡市における地域コミュニティの活動と住民の地域への愛着」

※ 参加ご希望の方、お問合せは、松村 (o.matsumura@kurenai.waseda.jp) までご連絡ください。

(2) 第170回「社会保障」研究会開催のお知らせ

1) 日 時: 2025年5月21日(水) 18:00~20:00

2) 報告者: 金 貞任(東京福祉大学教授)

3) テーマ「アドバンス・ケア・プランニング(人生会議:ACP)の現状と情報提供について ―要介護高齢者の家族介護者を中心に―」

4) オンラインで開催いたします。

※ 参加を希望される方は、阿部 (fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp) にご連絡ください。資料をお送りいたします。

(3) 第106回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時: 2025年5月22日(木) 15:00~18:00

2) 場 所: 早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室

3) テーマ:「コミュニティの原点・村落共同体に学ぶ」

発表者: 大下 勝巳

4) 参加費: 300円

※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) までお願い致します。

(4) 第56回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時: 2025年5月24日(土) 18:30~20:30

2) 場 所: 品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室

3) 発表者: YNS やまぶき任意後見、アワーズ、シニア学会員

4) テーマ: 人形劇その他

劇団 「^{びしょうざ}B笑座」

認知症を可視化し、わかりやすくします。人形劇、寸劇など劇団員募集しています。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) までお願い致します。

(5) 第58回「社会情報」研究会開催のお知らせ

1) 日 時: 2025年5月28日(水) 15:00~17:00

2) 場 所: Zoom 開催

3) 報告者: 全員で検討

4) 概 要: 「高齢者の情報リテラシー」の枠組み検討

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 (moriyasu@ied.co.jp) までご連絡ください。

(6) 第62回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

1) 日 時: 2025年5月28日(水) 17:30~19:30

2) テーマ: 生活習慣病を防ぐには:「食について考える」健康管理士 長谷川洋

※ ご連絡ご質問は、中村昌子 (nakamurayoshiko6@gmail.com) までお願いします。

4. 各研究会の概要報告

(1) 第57回「社会情報」研究会の報告

1) 日 時: 2025年4月16日(水) 15:00~17:00

2) 場 所: ちよだプラットフォームスクウェア503会議室

3) 報告者: 全員で検討

4) テーマ: 「高齢者のデジタル・インクルージョン達成に向けた方策」を再度検討
―支援とリテラシー教育を両輪として検討

5) 概要：4種の配布資料を基に議論

【議論の要点と以降の検討事項】

- “リテラシー”をどうとらえるか、基本的枠組→具体へと進めるのがいいのではないか。
- 対象をSNSに絞ってはどうか。ターゲットをどう絞るか。
- 情報の“収集・分析”に向けてどう動くか。
“収集、分析”→“理解、咀嚼”と進むのではないか。
- アンケート調査を行うことも一つの方法。

【意見交換】

- 何のための情報リテラシーなのか？
判断するときの情報の読み取り方か？行動につながる時の情動的根拠なのか？
- 新聞記事も多祇を読んで正確かどうかを判断している。正しい情報を得るには努力が必要。
- 自分の好きな話に乗ってしまう→自分の苦手な情報を見ることで正しい情報も得られる。
- 高齢者はテレビや新聞のニュースが正しいと思い込んでいるところがある。
- “利害関係”、“ビジネスになるか”が情報産業の中にある。

(森やす子 記)

(2) 第105回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日時：2025年4月21日(木) 15:00~18:00
- 2) 場所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：「恥の文化」と地域コミュニティその隠居学的考察—
発表者：佐藤 敬

佐藤さんは、レポートを常日頃関心がある「隠居学」の流儀で作成された。(1)「恥の文化」という概念は、アメリカの文化人類学者ルース・ベネディクトが提唱したもので、著書『菊と刀』で論じていること。(2)「恥の心理」を「人見知り」という側面から解説。地域コミュニティ内の「困っている人」が、なかなか手を挙げない理由は、「顔見知りの人々に不本意の自分を見られる恥ずかしさ」という日本人特有の「恥の心理」にあると語る。(3)「恥の心理」を「やせ我慢」から分析。「やせ我慢」は日本的な「恥の心理」バリエーションである。(4)「やせ我慢」を「おせっかい」と結びつけて解説。「おせっかい」精神を「世話をやく」という行為との関連性を解く。そして(5)デュルケームの『社会分業論』に話しは展開する。デュルケームの理論を現代の地域コミュニティの世界に当てはめることで、「困ったときに手を挙げられる」社会の構築に向けたヒントが得られるのではと語る。(6)まとめとして、他者に助けを求めることをためらうことのない社会をつくるために必要となる条件として次の3点を列記。①他者への依存が恥ではなく、社会的連帯の一環として正当化される環境。②個人の違いを認め合い、それぞれの特性が相互に補完し合う社会構造。③援助を通じて社会全体が利益を享受するという「ウインウイン」の意識。(7)最後に余話として、ご自分が居住する団地のシニアクラブの最近のケーススタディを紹介され、「相互依存」の経験を機に、わが団地のシニアクラブは、「現代に合った『依存の場としての中間集団』に一歩近づくことになりそうである」と結ばれた。

濱口座長は、日本人の世間的な生き方の背景にある世間を如実に描写した著書として、長塚節の『土』を紹介され、作品を読む者に、世間と恥の問題について今日なお教え続けているとコメントされた。

(島村健次郎 記)

(3) 第169回「社会保障」研究会の報告

- 1) 日時：2025年4月23日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：魚住明代(城西国際大学教授)
- 3) テーマ：「地域における居場所づくり—ドイツ連邦プログラムの取り組み—」
- 4) 参加人数：19名

ドイツでは、少子高齢化や移民・難民の受け入れによる長期的な人口変動を見据えて、地域における世代間交流と相互支援の拠点づくりが進められている。2006年にスタートした連邦プログラム「多世代の家」は、現在プログラムの第Ⅳ期に入っており、通所型の多世代・異文化交流施設として、全国530ヶ所で地域のニーズに応える活動を展開している。報告者は、公益財団法人アーバンハウジングの助成による現地調査(2018/2024年)を踏まえて、ドイツの事情を報告した。1. ドイツの人口動向(出生動向、高齢者、移民の人口比率など)、2. 「多世代の家」の支援内容やボランティア活動、3. 地方自治体や後援組織との連携、4. 第三者機関によるプログラム評価等を取り上げ、連邦プログラム「多世代の家」の意義と課題をまとめた。

参加者からは、地域共生社会を創る取組みが日本でも増えているが、財源上の問題を抱えていることから、全国規模の公的助成には意義が認められること、全世代に向けた生活支援のフレーム構築の必要性がある等の指摘がなされた。またボランティアに関して、地域間格差や文化的基盤の相違が影響すること、高齢化と移民増加に伴い地域における相互支援の必要性が日本でも増しているとの指摘があった。日本でも多世代交流と異文化融和を同時に進めていくプログラムは必要であり、特に縦割り行政の問題を抱える日本にとって示唆に富むとの意見が示された。

(魚住明代 記)

(4) 第55回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2025年4月26日(土) 18:30~20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：人形劇の在り方

(鈴木眞澄 記)

(5) 第61回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 2025年4月30日(水) 17:30~19:30 Zoom開催
- 2) テーマ：2025年5月~2026年3月までのテーマを出し合って、担当を決める。
尚、基本、研究会開催はZoomにて、17:30~19:30となります。

参加者が意見交換した結果、2025年5月~2026年3月の研究会テーマは以下の様になりました。会員の皆さま、関心のあるテーマがございましたら、ご友人、知人などとお誘いあわせの上、気軽にご参加ください。

- ・5月28日(水)：生活習慣病を防ぐには：「食について考える」長谷川洋
- ・6月24日(火)：シニア世代と生成AI 渡邊哲哉 鈴木さや
- ・7月30日(水)：それぞれの死生観(死生感)について意見交換 中村昌子
- ・8月23日(土)：リアル納涼会ランチ in Tokyo 11:30~13:30頃まで
- ・9月24日(水)：読書会 「人はどう死ぬのか」「人はどう老いるのか」
久坂部羊 講談社現代新書 柴本淑子
- ・10月29日(水)：「おばちゃん力」と共に生きる 栗野牧子
- ・11月26日(水)：精神分析の世界と私 岡田慶子
- ・12月20日(土)：ウェルビーイングと心の豊かさ 渡邊哲哉 ※11:30~13:30
忘年会も兼ねて開催予定。
- ・2026年1月28日(水)：今後の人生の「居場所づくり」 清水春代 ※新年会も兼ねる
- ・2026年2月25日(水)：鶏卵からアニマルウェルフェアへ 松島悦子
- ・2026年3月25日(水)：料理写真の変遷 柴本淑子

(中村昌子 記)

5. 事務局からのお知らせとお願い

<『エイジレスフォーラム』第23号送付と年会費納入について>

- 総会に参加される方には、『エイジレスフォーラム』第23号と年会費納入に関する資料を、会場受付でお渡しします。当日、会場受付にて年会費納入ができます。
- その他の方には、学会に登録している住所に、6月上旬郵送いたします。
- 2025年度年会費未納の方は、同封されています郵便振込用紙で、6月30日までにお振込みください。(銀行振り込みも可)

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

事務所移転後は、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報(氏名・住所・メールアドレス等)に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

<2025年6月 JAAS News の発行日>

次回 JAAS News 第310号の発行日は、2025年6月18日(水)です。原稿をお寄せ下さる方は、6月13日(金)までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>